The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	寺の名称のアクセントについて
Author(s)	儀利古, 幹雄
Citation	日本語・日本文化研究. 2015, 25, p. 12-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/54499
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

寺の名称のアクセントについて

儀利古　幹雄

1. はじめに

本研究の目的は、「東大寺」や「薬師寺」のような寺の名称のアクセントがどのように決定されているかを明らかにすることである。特に、世代によって寺のアクセントの決まり方は異なっており、高年層では佐藤（1989）の指摘するように前部要素（N1）の音韻構造によって全体のアクセント型が決定されているのに対し、若年層では N1 のアクセント型に影響される形で全体のアクセント型が決定されていることを指摘する。なお、ここで言う寺の名称とは、後部要素（N2）が「寺（じ）」である複合名詞のことであり、N2 を「てら」と発音するものは分析の対象外とする。

寺の名称のアクセントは、他の日本語の複合名詞アクセントと比較して、極めて特殊であると言える。まず、N2 が 1〜2 モーラである場合の複合名詞アクセントには (1) に挙げる 3 タイプの複合名詞アクセントが観察されるが、「東大寺」のような寺の名称のアクセントは (2) に挙げるように、そのいずれにも属さない（◯¬はアクセントを、◯⁰は平板型アクセントを示す）。

(1) a. かˬぶと ＋ むし⁰ → かぶとˬむし（カブト虫）
　　b. ぺˬるしゃ ＋ ねˬこ → ぺるしゃねˬこ（ペルシャ猫）
　　c. ねずみ⁰＋ いろˬ → ねずみいろ⁰（ねずみ色）

(2) とうだい ＋ じ → とˬうだいじ（東大寺）
　　せんそう ＋ じ → せˬんそうじ（浅草寺）

上の (2) の例からもわかるように、寺の名称は初頭音節が高くなる頭高型で発音される。この頭高型というアクセント型は、(1) に挙げたような他の一般的な複合名詞には観察されないものであり、その意味で寺の名称のアクセントは特殊であると言える。

また、寺の名称のアクセントは、そのアクセント型が一貫しないという点においても特殊である。(3) に挙げるように、一般的に日本語の複合名詞アクセントは、N2 が同じであれば生起する全体のアクセント型も同じである（生起するアクセント型が一貫している）が、(4) に挙げるように寺の名称のアクセントは必ずしもそうではない。

(3) しんぞう⁰＋ びょう → しんぞうびょう⁰（心臓病）
　　せˬいしん ＋ びょう → せいしんびょう⁰（精神病）

(4) a. とうだい + じ → と¬うだいじ（東大寺）
　b. やくし + じ → やくしじ⁰〜やくし¬じ（薬師寺）

上の（4）の例からもわかるように、N2 が同一の「寺（じ）」であっても、「東大寺」の場合には頭高型が生起し、「薬師寺」の場合には平板型もしくは N1 の最終音節にアクセントが付与されるパターンが生起している。これは N2 が同一の「病」であれば、複合名詞アクセントも一貫して同じ平板型となる（3）の例とは対照的である。

本研究では、このような特性を持つ寺の名称のアクセントがどのようにして決定されているのかについて考察する。以降では、2 節で寺の名称のアクセントに関する先行研究を概観し、3 節ではその先行研究を踏まえたうえで実施したアクセント調査について報告する。このアクセント調査は 2 つの世代に対して行ったものであるため、結果については世代別に報告し、世代間の異同について考察する。最後に 4 節では調査結果に基づき本研究をまとめ、今後の課題を述べて本稿を締めくくる。

2. 先行研究

寺の名称のアクセントに関する先行研究として、まず秋永（1981）が挙げられる。秋永では、寺の名称には 2 つのパターンのアクセント型が観察されると述べられている。秋永（1981）の例を（5）に挙げる。

(5) a. 頭高型：きんかく + じ → き¬んかくじ（金閣寺）
　b. 尾高型：ごこく + じ → ごこくじ¬（護国寺）

ただし、秋永（1981）には、頭高型（もしくは尾高型）が生起する環境については述べられていないため、どのような環境の時にどちらのアクセント型が生起するかという点は不明瞭なままとなっている。

寺の名称のアクセントに関するもう 1 つの先行研究が佐藤（1989）である。佐藤はまず、頭高型の生起する条件として、N1 が 4 モーラであり、かつ初頭音節が重音節であることを挙げている。(6) に例を示す（H は重音節、L は軽音節を示す）。

(6) a. N1 = HLL：きんかく + じ → き¬んかくじ（金閣寺）
　b. N1 = HH：りょうあん + じ → りょ¬うあんじ（龍安寺）

次に佐藤は、N1 の末尾音節にアクセントが付与されるパターンが生起する条件として、N1 が 5 モーラ以上であることを挙げている。(7) に例を示す。

(7) a. N1 = 5 モーラ：こんごうぶ ＋ じ → こんごうぶ¬じ（金剛峯寺）
b. N1 = 6 モーラ：とうしょうだい ＋ じ → とうしょうだ¬いじ（唐招提寺）

最後に佐藤（1989）は、N1 が (6) (7) に挙げた構造以外の時には、平板型が生起すると述べている。即ち、N1 が 3 モーラである場合や、N1 が 4 モーラであっても初頭音節が軽音説の場合には平板型が生起するとしている。(8) に例を挙げる。

(8) a. N1 = LLL：やくし ＋ じ → やくしじ^{0}（薬師寺）
b. N1 = HL：にんな ＋ じ → にんなじ^{0}（仁和寺）
c. N1 = LLH：こくぶん ＋ じ → こくぶんじ^{0}（国分寺）

しかし、筆者の実施した予備調査では、佐藤（1989）に合致しない例も散見された。具体的には、全体が 4 モーラであっても初頭音節が軽音節の場合には、佐藤（1989）に従うと平板型が生起するはずであるが、実際には頭高型で発音される方が優勢であった。

(9) a. 頭高型：ろくおん ＋ じ → ろ¬くおんじ（鹿苑寺）（5/7 = 71.4%）
b. 平板型：ろくおん ＋ じ → ろくおんじ^{0}（鹿苑寺）（2/7 = 28.6%）

このことから、佐藤（1989）における一般化はどこまで説明力を有するものであるかという疑問が生じる。佐藤（1989）で述べられているように、N1 のモーラ長や音節構造のみによって、寺の名称のアクセントが決まっているなら、(9) のような例外は生じないはずだからである。以上のような問題意識を背景として、本研究では寺の名称のアクセントに関する調査を行った。次節ではその調査の方法と結果について報告し、佐藤（1989）との異同を考察する。

3. 調査

3. 1 調査方法

まず、調査に参加したインフォーマントについて述べる。インフォーマントは 24 名の東京方言話者であり、世代によって 2 つのグループに分けられる。高年層（29-58 歳）としたのは 8 名であり、若年層（18-24 歳）としたのは 15 名である。なお、8 名の高年層のうち、3 名が男性で 5 名が女性であり、若年層はすべて女性から構成される。

調査語彙は 100 語であり、どれも現実には存在しない寺の名称となっている。これらの N1 は実在する単語であるが、あまりにも馴染み度が薄いと判断した語は N1 として用いなかった。また、これらの N1 が小川（2006）に記載されている正しいアクセントで発音されているかどうかも事前に調査したが、99.2%の N1 が期待されるアクセント型で発音さ

れていた。調査語彙を表 1 と表 2 にまとめる。

表 1. 調査語彙（N1 = 3 モーラ）

N1 音節構造	N1 アクセント型	語例
HL	頭高型	頑固寺、質素寺
	尾高型	節句寺、道具寺
	平板型	教授寺、林檎寺
LH	頭高型	衣装寺、機能寺
	中高型	虚数寺、魔王寺
	平板型	呼吸寺、妥協寺
LLL	頭高型	悪夢寺、秩序寺
	尾高型	四角寺、役所寺
	平板型	学費寺、落語寺

表 2. 調査語彙（N1 = 4 モーラ）

N1 音節構造	N1 アクセント型	語例
HH	頭高型	安産寺、音声寺
	中高型	工場寺、方言寺
	平板型	陰謀寺、猛獣寺
HLL	頭高型	骸骨寺、満月寺
	中高型	正直寺
	尾高型	正月寺
	平板型	性格寺、反復寺
LLH	頭高型	水晶寺、白状寺
	中高型	臆病寺、極端寺
	平板型	鉄道寺、発音寺
LLLL	頭高型	日仏寺、唯一寺
	中高型	血液寺、植物寺
	平板型	爆発寺、目撃寺

調査手順は以下のとおりである。まず、表 1 と表 2 に挙げたような調査語彙を無作為に並べ替え、調査語彙表を作成した。そして調査語彙表をインフォーマントに提示して、各語につき 2 回発音してもらった。この際、インフォーマントの発音が 1 回目と 2 回目で揺

れた場合は、その両パターンを分析対象として加えた（ただアクセントの揺れは、頭高型と平板型の間にしか確認されなかった）。このようにして発音されたアクセントを録音し、分析対象とした。

3. 2　調査結果

まず、高年層の結果から示す（以下の表においては、N1acc は N1 のアクセント型を、CA は複合語になったときのアクセント型（つまり寺の名称のアクセント型）を示す）。

表 3. N1 が 3 モーラの場合の寺の名称のアクセント（高年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	0 (0%)	0 (0%)	107 (89.2%)	13 (10.8%)	120 (100%)
中高型	0 (0%)	0 (0%)	26 (90.0%)	4 (10.0%)	40 (100%)
尾高型	0 (0%)	0 (0%)	57 (89.1%)	7 (10.9%)	64 (100%)
平板型	0 (0%)	0 (0%)	111 (92.5%)	9 (7.5%)	120 (100%)
合計	0 (0%)	0 (0%)	311 (90.4%)	33 (9.6%)	344 (100%)

N1 が 3 モーラの場合（例：頑固寺、呼吸寺、役所寺）は、N1 のアクセント型にかかわらず、圧倒的に平板型が生起することが見て取れる。この事実は N1 の音節構造が変わろうとも変化しない。なおこのことは、佐藤（1989）で述べられている内容と同様である。

次に、N1 が 4 モーラの場合の結果を、N1 の音節構造別に示す。表 4 は N1 が重音節で始まる場合の結果で、表 5 は N1 が軽音節で始まる場合の結果である。

表 4. N1 が 4 モーラかつ初頭音節が重音節である場合の寺の名称のアクセント（高年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	80 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
中高型	37 (77.1%)	3 (6.3%)	5 (10.4%)	3 (6.3%)	48 (100%)
尾高型	5 (62.5%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	0 (0%)	8 (100%)
平板型	72 (90.0%)	3 (3.8%)	5 (6.3%)	0 (0%)	80 (100%)
合計	194 (86.2%)	8 (3.6%)	11 (4.9%)	3 (1.3%)	225 (100%)

表 5. N1 が 4 モーラかつ初頭音節が軽音節である場合の寺の名称のアクセント（高年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	8（10.0%）	14（17.5%）	58（72.5%）	0（0%）	80（100%）
中高型	18（22.5%）	11（13.8%）	51（63.8%）	0（0%）	80（100%）
平板型	0（0%）	18（22.5%）	62（77.5%）	0（0%）	80（100%）
合計	26（10.8%）	43（17.9%）	171（71.3%）	0（0%）	240（100%）

N1 が 4 モーラでかつ初頭音節が重音節の場合（例：安産寺、骸骨寺）には、N1 のアクセント型にかかわらず、圧倒的に頭高型が生起することが見て取れる。一方、N1 が 4 モーラかつ初頭音節が軽音節の場合（例：臆病寺、爆発寺）は、平板型の生起頻度が高くなっている。これらの事実は、佐藤（1989）で述べられていることと同様のものである。

次に若年層の結果を示す。

表 6. N1 が 3 モーラの場合の寺の名称のアクセント（若年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	70（31.1%）	71（31.6%）	79（35.1%）	5（2.2%）	225（100%）
中高型	0（0%）	0（0%）	46（61.3%）	29（28.7%）	75（100%）
尾高型	0（0%）	0（0%）	99（82.5%）	21（17.5%）	120（100%）
平板型	0（0%）	0（0%）	215（95.6%）	10（4.4%）	225（100%）
合計	70（10.8%）	71（11.0%）	439（68.1%）	65（10.1%）	645（100%）

N1 が 3 モーラの場合は、全体として平板型の生起頻度が優勢である（68.1%）。ただし、N1 のアクセント型によって、生起するアクセント型の分布は大きく異なっていることもわかる。具体的には、N1 のアクセント型が頭高型の場合（例：頑固寺、悪夢寺）は、N1 が 3 モーラであるにもかかわらず、頭高型の生起頻度（31.1%）と頭高型と平板型の間で揺れるケースの生起頻度（31.6%）が高くなっていることがわかる。また、N1 が中高型の場合（例：虚数寺、魔王寺）に、N1 末尾にアクセントが付与されるパターンの生起頻度が若干高くなることも観察される（28.7%）。ただ、N1 が平板型の場合（例：教授寺、呼吸寺）は、安定して平板型の生起頻度が高くなる（95.6%）。

次に、N1 が 4 モーラである場合の結果を表 7 に示す。

表 7. N1 が 4 モーラの寺の名称のアクセント（若年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	300（100%）	0 (0%)	0（0%）	0（0%）	300（100%）
中高型	48 (20.0%)	14 (5.8%)	121（50.4%）	57（23.8%）	240（100%）
尾高型	5 (33.3%)	0 (0%)	10（66.7%）	0（0%）	15（100%）
平板型	51 (17.0%)	38 (12.7%)	211（70.3%）	0（0%）	300（100%）
合計	404 (47.3%)	52 (6.1%)	342（37.9%）	57（6.7%）	855（100%）

N1 が 4 モーラの場合は、これまでの結果と異なり、頭高型と平板型の生起頻度が拮抗している（47.3% *vs.* 37.9%）。また、N1 が 3 モーラの場合と同様に、N1 のアクセント型によって、生起するアクセントの分布が若干異なっていることもわかる。N1 が頭高型の場合（例：安産寺、音声寺）は頭高型しか生起しないのに対し、N1 が平板型の場合（例：陰謀寺、猛獣寺）は平板型の生起頻度が圧倒的に高くなっている（70.3%）。また、N1 が中高型や尾高型の場合にも、平板型の生起頻度が高くなっていることもわかる。

以降では、N1 の音節構造別に結果を示す。まず、N1 が 3 モーラの場合の結果を表 8 から表 10 にまとめる。

表 8. N1 が HL である場合の寺の名称のアクセント（若年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	30（40.0%）	14 (18.7%)	31（41.3%）	0（0%）	75（100%）
尾高型	0 (0%)	0 (0%)	62（82.7%）	13（17.3%）	75（100%）
平板型	0 (0%)	0 (0%)	75（100%）	0（0%）	75（100%）
合計	30 (13.3%)	14 (6.2%)	168（74.7%）	13（5.8%）	225（100%）

表 9. N1 が LH である場合の寺の名称のアクセント（若年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	21（28.0%）	17 (22.7%)	34（45.3%）	3（4.0%）	75（100%）
中高型	0 (0%)	0 (0%)	35（46.7%）	40（53.3%）	75（100%）
平板型	0 (0%)	0 (0%)	75（100%）	0（0%）	75（100%）
合計	21 (9.3%)	17 (7.6%)	144（64.0%）	43（19.1%）	225（100%）

表 10. N1 が LLL である場合の寺の名称のアクセント（若年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	19（25.3%）	40 (53.3%)	16（21.3%）	0（0%）	75（100%）
尾高型	0 (0%)	0 (0%)	36（80.0%）	9（20.0%）	45（100%）
平板型	0 (0%)	0 (0%)	75（100%）	0（0%）	75（100%）
合計	19 (9.7%)	40 (20.1%)	127（65.1%）	9（4.6%）	195（100%）

表 8 から表 10 に共通して観察される傾向は、N1 のアクセント型が寺の名称のアクセント型の決定に強く影響しているということである。具体的には、同じ音節構造であっても、N1 のアクセント型が頭高型の場合は、全体も頭高型になる傾向が観察される。これは佐藤（1989）では述べられていなかった傾向である。逆に、N1 が平板型のときは、全体のアクセント型も安定して平板型が生起している。このことも、N1 のアクセント型が寺の名称のアクセントに強く影響していることを示している。

次に N1 が 4 モーラの場合の音節構造別の結果を表 11 から表 14 にまとめる。

表 11. N1 が HH である場合の寺の名称のアクセント（若年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	75（100%）	0 (0%)	0（0%）	0（0%）	75（100%）
中高型	24 (32.0%)	10 (13.3%)	20（26.7%）	21（28.0%）	75（100%）
平板型	14 (18.7%)	12 (16.0%)	49（65.3%）	0（0%）	75（100%）
合計	133 (59.1%)	22 (9.8%)	69（30.7%）	21（9.3%）	（100%）

表 12. N1 が HLL である場合の寺の名称のアクセント（高年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	75（100%）	0 (0%)	0（0%）	0（0%）	75（100%）
中高型	3 (20.0%)	5 (33.3%)	7（46.7%）	0（0%）	15（100%）
尾高型	6 (40.0%)	0 (0%)	9（60.0%）	0（0%）	15（100%）
平板型	20 (26.7%)	18 (24.0%)	37（49.3%）	0（0%）	75（100%）
合計	104 (57.8%)	23 (12.8%)	53（29.4%）	0（0%）	180（100%）

表 13. N1 が LLH である場合の寺の名称のアクセント（若年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	75（100%）	0（0%）	0（0%）	0（0%）	75（100%）
中高型	14（18.7%）	0（0%）	28（37.3%）	33（44.0%）	75（100%）
平板型	6（8.0%）	5（6.7%）	64（85.3%）	0（0%）	75（100%）
合計	95（42.2%）	5（2.2%）	92（40.9%）	33（14.7%）	225（100%）

表 14. N1 が LLLL である場合の寺の名称のアクセント（若年層）

N1acc＼CA	頭高型	頭高～平板	平板型	N1 末尾	合計
頭高型	75（100%）	0（0%）	0（0%）	0（0%）	75（100%）
中高型	8（10.7%）	0（0%）	64（85.3%）	3（4.0%）	75（100%）
平板型	9（12.0%）	2（2.7%）	64（85.3%）	0（0%）	75（100%）
合計	92（40.9%）	2（0.9%）	128（56.9%）	3（1.3%）	225（100%）

N1 が 4 モーラの場合でも、N1 が 3 モーラのときと同様の傾向が観察される。まず、N1 が重音節で始まる場合、佐藤（1989）に従えば頭高型のみが生起することが予測されるが実際はそうではない。確かに N1 のアクセントが頭高型のときは全体としても安定して頭高型が生起する傾向にあるが、N1 が平板型のときには寺の名称が平板型で発音される頻度が高くなっている。

N1 が軽音節で始まる場合も同様である。N1 が軽音節で始まる場合は佐藤（1989）に従うと平板型のみが生起するはずである。確かに、N1 が平板型のときは全体も平板型になる頻度は高い。しかし、N1 が頭高型の場合は、全体も頭高型になる頻度が著しく高くなっていることも見て取れる。これらのことから、少なくとも若年層においては、寺の名称のアクセントは N1 の音節構造やモーラ長によってのみ決まっているのではなく、N1 自体のアクセントに少なからず影響されて決まっていると言える。

4. 結語

前節では、寺の名称のアクセントがどのように決まっているのかを明らかにすべく実施した調査について報告した。その結果、寺の名称のアクセントの決まり方には世代差があることがわかった。具体的には、高年層では、佐藤（1989）が述べているように、N1 の音節構造やモーラ長によってのみ寺の名称のアクセントが決定されていたが、若年層では N1 の音節構造やモーラ長だけではなく、N1 のアクセント型にも影響されて寺の名称のアクセントが決定されていることがわかった。即ち、若年層においては、N1 が頭高型なら全体も頭高型になりやすく、N1 が平板型なら全体も平板型になりやすいという傾向が観

察された。このことは佐藤（1989）で述べられていなかった新たな知見である。

今後の課題としては、実在の寺の名称についての調査方法の模索が挙げられる。今回本稿で扱ったのは、実在語と「寺（じ）」を組み合わせた実在しない寺の名称である。このため、本研究で観察された傾向が、実在の寺の名称のアクセントにどの程度反映されているのかは不明瞭なままである。今後は「東大寺」のような実在の寺の名称のアクセントとその前部要素である「東大」のアクセントとの関係について明らかにすべく、さらなる調査が必要である。

【参考文献】

秋永一枝（1981）「アクセント習得法則」金田一春彦（編）『明解日本語アクセント辞典』三省堂.

佐藤大和（1989）「複合語におけるアクセント規則と連濁規則」杉籐美代子（編）『日本語の音声音韻』明治書院.

小川晋史（2006）「日本語諸方言の２字漢語アクセント」修士論文，神戸大学.